

議 事 録

会議名	令和3年度 第3回三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議議事録				
日 時	令和4年2月8日(火) 午後7時00分～午後8時00分				
会 場	三鷹市教育センター オンライン開催				
出席委員	【委員】 神崎恒一、菊池健、望月諭、名古屋恵美子、齋藤貴彦、上遠野範子、道三啓吾、服部将志、望月謙治、吉本朋子 (欠席 吉永陽子) <定員数11人中10人出席：有効>				
事務局	健康福祉部調整担当部長兼旧どんぐり山利活用担当部長兼地域福祉課長、高齢者支援課長、高齢者相談係長、他事務局2人				
会議の公開・非公開	公開				
傍聴人数	0人				
<p><b>1 開会</b></p> <p>【健康福祉部調整担当部長兼旧どんぐり山利活用担当部長兼地域福祉課長の馬男木部長より挨拶】</p> <p>三鷹市内の自宅療養者は1301人を記録した。12月に開催された市議会において認知症初期集中支援事業の効果等に質問があった。認知症サポーターの確保、認知症当事者の参加について、皆様方に専門的な視点でご意見をいただき、三鷹版チームオレンジを目指していきたい。</p> <p>【事務局からのお知らせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議事録の作成と公開</li> <li>・本日の配付資料の確認</li> </ul>					
<p><b>2 議題</b></p> <p>議題に先立ち、今年度杏林大学医学部付属病院認知症疾患医療センターでは地域づくりや三鷹市のまちづくりを意識して取り組んできたため、相談員より報告する。地域拠点型の認知症疾患医療センターとして北多摩南部地域認知症連携会議を年1回開催している。今年度は東京都健康長寿医療センターの研究所の栗田氏に「認知症とともに暮らせる社会に向けて」をテーマに講演いただき、ネットワーキングについて意見交換できるようにした。</p> <p>三鷹市の地域連携型認知症疾患医療センターとして三鷹市内の認知症支援に関わる専門職を対象に、「三鷹市きれめのない認知症支援をめざして」の研修で「認知症とともに暮らせる地域に向けて」を開催した。前三鷹市長の清原氏にまちづくりや認知症をテーマに三鷹市の強みや課題を講演いただき、参加者との意見交換を行った。</p> <p>また入院体制があるような医療機関の看護師を対象に認知症対応力向上研修を年3回、かかりつけ医を対象に認知症研修を年2回行っている。また、認知症当事者や介護者家族への支援の取組としての忘れ講座等を年6回行っている。コロナ禍前は東部包括やそんぼの家丸池公園と認知症カフェという形で共催していた。</p> <p>ア 質疑応答及び委員からの意見</p> <table border="1"> <tr> <td>委員</td> <td>最近、医療機関の病棟看護師から家族の介護力が心配、ケアマネは決まっているのか、という問い合わせがあった。対応力向上研修の成果だと思う。研修の参加状況等について教えてほしい。</td> </tr> <tr> <td>相談員</td> <td>年間100人以上は参加者がいる。大変好評なので、今後も参加希望者が増えるだろう。身体合併症でケアをしている中で認知症のことも理解して対応するということが看護師に広がっている実感はある。研修の中で地域との連携や地域包括支援センターのことをアピールしている。</td> </tr> </table>		委員	最近、医療機関の病棟看護師から家族の介護力が心配、ケアマネは決まっているのか、という問い合わせがあった。対応力向上研修の成果だと思う。研修の参加状況等について教えてほしい。	相談員	年間100人以上は参加者がいる。大変好評なので、今後も参加希望者が増えるだろう。身体合併症でケアをしている中で認知症のことも理解して対応するということが看護師に広がっている実感はある。研修の中で地域との連携や地域包括支援センターのことをアピールしている。
委員	最近、医療機関の病棟看護師から家族の介護力が心配、ケアマネは決まっているのか、という問い合わせがあった。対応力向上研修の成果だと思う。研修の参加状況等について教えてほしい。				
相談員	年間100人以上は参加者がいる。大変好評なので、今後も参加希望者が増えるだろう。身体合併症でケアをしている中で認知症のことも理解して対応するということが看護師に広がっている実感はある。研修の中で地域との連携や地域包括支援センターのことをアピールしている。				

(1) 「認知症サポーター活動促進事業（チームオレンジ）について」

前回の会議では、三鷹版チームオレンジをボランティアセンター（以下ボラセン）に配置することを含め検討した。現在の事業イメージとしては、ボランティアをしたという認知症の方は社協の地区担当に相談しマッチングを行う。認知症の人の声かけや付き添いを誰かに頼みたい方には、ほのぼのネット員を活用することを検討している。

具体的にはほのぼのネット員に認知症サポーター養成講座等を受講してもらい、希望者には認サポネット員（仮称）として協力を依頼する形を想定している。ボランティアの内容としては介護保険外のサービスのことを担ってもらおうとして、どういったことを頼むのか。また、認知症当事者の方が担うボランティア活動はどういったものが良いのか、以上の2点について、意見交換を行う。

ア ボラセンの現状

社協に依頼されているボランティアの要請はコロナ禍の影響もあり決して多くないが、50件弱程ボランティアの要請がある。例えば施設から利用者の散歩の補助の手伝い、将棋や囲碁の相手をしてほしい、といった依頼がある。

イ 委員からの意見

委員	認サポネット員が、認知症の方が自身の歴史を振り返ることができるようにアルバムの整理を手伝うのはどうか。認知症の方に特化したアプローチが良いのでは。
委員	ほのぼのネット員は女性が多く、男性の認知症サポーターがかかわりを躊躇する懸念がある。サポーターの在り方は、ほのぼのネット員だけではなく認知症サポーターフォローアップ講座の受講者の集団など、様々な人がアクセスできるように準備しておくのが良いのではないかと。認知症の方はサポートを受けるだけでなく、担い手にもなるという視点で、事業を展開していくのが良い。
委員	自宅で話し相手になれば自宅内の様子を見ることができる。認知症サポーター養成講座に認知症の方の生活を確認する視点を加えるなど講義内容を検討し直すのも良いかもしれない。認知症当事者の方をお願いしたいボランティアについては施設や介護する家族にチームオレンジの広報活動を行い、活動内容を積極的に増やしていく必要がある。
委員	認知症当事者や健常者が一つのチームを作り、施設の園芸の花植えを行うなど、みんなで楽しめる活動を目指していく方向性が良い。
委員	健常な方が認知症の方々に介護保険の枠外でボランティアを行う場合は、ホームページ等で希望するボランティアの内容を募集しオートマッチングにマッチングを行っても良い。認知症の初期の方々が行うボランティアに関しては、認知症当事者が安全にボランティアを行えるような仕組みを作ることが重要。認知症サポーター養成講座を受けた方が認知症の方にボランティアを提供する形では、認知症当事者への対応に習熟したボランティアを育成することが重要になるだろう。
委員	ほのぼのネット員や認知症サポーター、社協の地区担当同士の顔がつながる連携の仕組みを作っていくと良い。

ウ 質疑応答

委員	社協の組織としてのコーディネート能力を求められるが、予算はどの程度確保できるのか。
事務局	現段階では予算のことは考慮せず、より良い事業になる様に意見交換を

委員 委員	<p>していただきたい。</p> <p>認知症当事者でも出来るようなボランティアはあるのか。</p> <p>多くはないが、施設の清掃の手伝いボランティアにつないだ例がある。</p> <p>また、包括やケアマネ経由で認知症当事者の自宅で将棋の相手をしてほしいというような依頼が来ている。</p>
委員 事務局	<p>事業開始時期はいつになるのか。</p> <p>令和5年度の実施の予定である。</p>
<p><b>3 その他</b></p> <p>(1) 振り返りと令和4年度の会議について</p> <p>令和2、3年度の本会議の実績等を振り返り、意見交換を行った。その後、来年度以降の委員の委嘱について説明を行った。</p> <p>イ 質疑応答</p>	
委員	<p>認知症初期集中支援推進事業に関連して、医療につながっていない方へアプローチするための人員の課題について何か解決策は提示されたのか。</p>
委員 委員	<p>具体的な発展には至っていない。</p> <p>継続課題として取り上げてても良いかもしれない。</p>

議事録署名委員

令和4年4月18日 神崎 恒一

令和4年4月28日 服部 将志